



燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会

熱い鼓動 風は南から

2020

8月3日～6日に伊佐市菱刈カヌー競技場で開催される「令和元年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）カヌー競技大会」まで1か月、また来年10月9日～12日に開催される第75回国民体育大会「燃ゆる感動かがしま国体」まで460日余りとなりました。

ふたつの大きな大会を前に、広報いさではカヌー競技に関する連載を開始します。今月号はカヌーの歴史と競技種目について、ぐりぶーと一緒に勉強していきましょう。



Q、国体カヌー競技には、どんな種類があるんだぶ～？

A 国民体育大会の競技には、静水面で行う「カヌースプリント競技」、河川などの急流で行う「カヌースラローム競技」と「カヌーワイルドウォーター競技」の3種目があります。

「燃ゆる感動かがしま国体」では、カヌースプリント競技が菱刈カヌー競技場で、カヌーワイルドウォーター競技が湧水町轟の瀬特設カヌー競技場で行われます。

(一倉・日高・久美田・崎山カヤックフォア：伊佐農林高校)



Kカヤック



Q、カヌーはいつから日本で普及したんだぶ～？

A カヌーが日本でスポーツ競技として普及したきっかけは、1964年東京オリンピックです。1982年島根国民体育大会からは、国体正式種目に採用されました。2020年東京オリンピックでも、活躍が期待されています。

また最近では、自然と親しむアウトドアスポーツとして愛好家が増え、生涯スポーツとしても盛んに行われています。

(久保田・植木カナディアンペア：大口高校)



Cカナディアン



Q、カヌースプリント競技をもっと知りたいぶ～

カヌースプリント競技は、流れのない河川・湖沼を利用し、一定の距離とレーン（水路）を決めて、着順を競います。

国民体育大会とインターハイのレースは、男女ともに500mと200mの直線コースで着順を決めます。競技艇の種類は、カヤック(K)とカナディアン(C)の2種があり、ともに1人乗り(シングル)、2人乗り(ペア)、4人乗り(フォア)があります。



ガンバレ高校生



全国高等学校総合体育大会（インターハイ）カヌー競技大会に出場する伊佐の選手を紹介するぶ～。練習の成果をだせるよう応援してるぶ～。

8月3日（土）～6日（火）：全日程9時競技開始

KEISEN KUBOTA



久保田 桂仙 さん
大口高校 2年
・男子カナディアンペア
自分の漕ぎができるよう頑張ります！

KEI SAKIYAMA



崎山 溪 さん
伊佐農林高校 3年
・女子カナディアンシングル
インターハイで2冠します。

KAZUKI UEKI



植木 一喜 さん
大口高校 1年
・男子カナディアンシングル
・男子カナディアンペア
あと1秒、0.1秒を悔いのないように漕ぐ!!

HINANO ICHIKURA



一倉 日奈乃 さん
伊佐農林高校 3年
・女子カヤックペア
・女子カヤックフォア
みんなで力を合わせて優勝できるように頑張ります！

SYUGO AKAKI



赤木 秀伍 さん
伊佐農林高校 2年
・男子カナディアンペア
ベストを尽くせるように頑張ります。

AIRI HIDAKA



日高 明依利 さん
伊佐農林高校 3年
・女子カヤックフォア
みんなで協力して優勝できるように頑張ります！

AIKI HIDAKA



日高 明希 さん
伊佐農林高校 1年
・男子カナディアンシングル
・男子カナディアンペア
シングルでもペアでも優勝します。

YUI KUMITA



久美田 結衣 さん
伊佐農林高校 1年
・女子カヤックフォア
初めてなのでみんなと協力して頑張りたいです。

SAKURA ABEMATU



精松 さくら さん
大口高校 2年
・女子カヤックペア
ベストを尽くす！

SAKI SAKIYAMA



崎山 咲 さん
伊佐農林高校 1年
・女子カヤックペア
・女子カヤックフォア
みんなで協力して上位入賞できるように頑張ります。

AYAKA KARIJUKU



狩宿 綾華 さん
大口高校 2年
・女子カヤックペア
息を合わせてベストタイム更新!!

MANAKA KAKIGAWA



柿川 愛香 さん
大口高校 2年
・女子カヤック補欠
応援よろしくお願ひします。

キラリ! 伊佐人

Interview

伊佐の地から全国・世界に羽ばたき、さまざまな業種で活躍されている方々がたくさんいらっしゃいます。その半生から、子どもたちが将来の夢を描くヒントになればとの想いを込めて、伊佐人にスポットを当てる不定期連載。今月は、実業家の出水賀一さんに話を聞きました。



出水賀一

いずみ よしかず さん

大口校区出身

株式会社 パネット
代表取締役 兼 CEO

—どんな子どもでしたか？

とにかく負けず嫌いでした。小学1年の時、旧大口市に引っ越して来ました。子どもの頃の楽しみといえば、祖父の家があった十曾でのクワガタ採取や川遊びでしたね。大自然に囲まれたあの環境は、現在の東京での生活では考えられず、本当に貴重な経験でした。ただ、生活は決して裕福ではなく、むしろ苦しかったです。子どもながらに、どうして自分だけこんな苦しい思いをしなければならぬのかと悩む日々でした。人に馬鹿にされたくない、他人に甘えたくない、という考えをずっと持っていた子どもだったと思います。

—学生時代の思い出を教えてください

部活動が僕の青春でした。大口中学校では、バレー部に入りました。理由は2つ。レギュラーで試合に出場できて、お金があまりかからないからです。しかし、自分は個人プレーのほうが向いてると感じていたので、大口高校ではバドミントン部に入りました。当時は競技人口が少なく、県大会での優勝も狙えたのが一番の理由です。優勝こそできませんでしたが、仲間と一生懸命練習して、好成績を収めることができました。当時の友人とは今でも交流が続いています。

—勉強は得意でしたか？

いや、勉強は全然しなかったです。進路指導の先生に、大口高校には進学できないといわれたので、受

験の時期だけ必死で勉強しましたよ。

英語の先生には、これからの時代は英語の勉強が不可欠だと説教されましたが、「俺は社長になって、必要な時は英語通訳士を雇うから勉強しない」と言い切ったこともありました。仕事でシンガポールのレセプションに招待されたとき、それは現実になりましたけどね(笑)。

—記憶に残っている先生はいますか？

小学校3年生のとき担任だった児島先生との出会いがなければ、今の私はないかもしれません。児島先生は、とても厳しかったけど、何事も一生懸命に取り組む愛情溢れる人でした。

家庭環境が原因で、卑屈になっていた私を気にかけてくださり、積極的な人格を引き出し、自己主張の大

切さを教えてくれました。社長として社員を指導する立場になって、児島先生をお手本にしています。

—大口高校卒業後、どのような経緯で実業家になったのですか？

まずは、友人と名古屋市の企業に就職しました。しかし、たくさんの人に埋もれ、会社の「駒」になる気がして、2か月で辞めてしまいました。鹿児島市内で営業の仕事にも就きましたが、それも長くは続きませんでした。

その後、華やかな夜の世界に憧れて、東京の飲食業界で経験を積み、満を持して、24歳の時に金沢で飲食店を出しました。しかし、友人に裏切られ、多額の借金を抱えてしまいました。

—一度、大きな挫折を経験されたのですね

はい。この時は、社会の厳しさに身に染みて味わい、人間不信にもなつて、本当に辛かったです。福井県での季節労働で、少しずつ借金を返済しました。

—人生のどん底から這い上がるきっかけはなんだったのですか？

東京の広告代理店の営業職に就いて、成功している人の仕事のやり方や考え方を真似したことです。結果がすべての業界ですから、とにかく必死で働きました。そのうち熱意が認められて、さまざまな業種の人を紹介してもらえようになりました。

私の場合、企業ニーズ（需要）に的を絞って市場を開拓し、企業同士を繋げることに努めました。例えば、人材不足に悩む会社と人材派遣会社

を繋いだり、情報戦略に弱い会社に得意な会社を紹介したり。それまでに培った人脈をフル活用した「ジョイントの役割」に徹する方法で、広告売上に結びました。

—人脈が成功のカギだったということですね

そうですね。自分のやり方を確立してからは、だんだんという方向に事が進んでいき、独立してコンサルティング会社を設立しました。その後、人材派遣会社、経理会社、オーダー

スーツ会社、コーヒーショップなど事業を拡大させました。今では、全ての会社を合わせて335人の社員

がいます。「九州焼肉てにをは」は、ふるさと伊佐の魅力を、東京の人や従業員にも知ってもらいたいという思いで設立しました。昨年度は、自社オーダースーツを愛用くださる花田優一氏が、ファッション部門でベストデビュータレント賞を受賞するなど、各事業で着実に成果が出ています。

—仕事のモチベーションはなんですか？

うーん、若い頃は、ロレックスの時計が欲しい、ベンツに乗りたいた

い願望がありました。しかし、値段を気にせず好きなものを食べたい、という気持ちが今でも一番強いですが、子どものころ我慢していたことが、私のハングリー精神の源になつているのかもしれない。

—最後に、伊佐の子どもたちへメッセージをお願いします

何事もチャレンジすることが大切です。やりたいことがあれば、まずやってみる。失敗しても、どうやったら成功するか、実現に向けて行動し続けること。最終的にはあきらめない人間が勝つということを伝えたいです。



出水さんが経営するブランドのスーツを着用する花田優一氏



東京赤坂駅前の一等地にて、「九州焼肉てにをは」を経営する出水さん。「てにをは」は、食材から店の内装まで徹底的に九州にこだわった焼肉店で、豚肉と米、焼酎は伊佐の食材を使用いただいています。